

北上川に架かる橋のご紹介 第2弾 ～北上大橋のあゆみ～

<h3>北上大橋</h3>	<p>北上大橋は、陸前高田市を起点として宮城県気仙沼市を経由し、一関市へ至る沿岸と内陸を結ぶ幹線道路です。また、緊急輸送道路に指定されており、東日本大震災津波では被災者の救命・救急搬送や救援物資の輸送等に大きな役割を果たした重要な道路の一つになっています。</p>		
<p>明治時代</p>	<p>●定期の蒸気船が通う 薄衣村（現 一関市川崎町）は「東磐の横浜」と称されるほど物資交易の港として、文化や人の交流する港（渡船場）として栄えていました。</p>		
<p>大正時代</p>	<p>●大正末期に大船渡線が開通 大船渡線は薄衣を通ることはなく状況は一変し、地区には危機感が漂いました。</p>		<p>当時の渡船場</p>
<p>昭和 9年</p>	<p>●北上大橋着工 この危機感から、北上川に橋を架ける機運が盛り上がりました。また、県営の渡船場で結ばれていた薄衣-弥栄-花泉の里道が県道に昇格し、更には軍事的配慮で沿岸と内陸を結ぶ道路も必要となり架橋計画が進みました。</p>		
<p>昭和10年</p>	<p>●完成間近の北上大橋が落橋 台風で、北上川が増水したことにより完成間近の北上大橋が落橋しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p style="text-align: center;">増水で落ちる前の橋 増水で落ちた橋</p>		
<p>昭和13年</p>	<p>●北上大橋が完成 全長204.4m、鋼アーチ部100.6mの当時は珍しいタイドアーチ形の橋が完成しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p style="text-align: center;">タワーの基礎据付状況 アーチ部の閉合が間近 架設が完了 橋の完成</p>		
<p>平成 7年</p>	<p>●新北上大橋が着工 旧北上大橋は65年間に渡り重要な役割を担ってきましたが、交通事情の変化と老朽化に伴い架け替えられることとなりました。</p>		
<p>平成15年</p>	<p>●新北上大橋が完成 全長482mで、バランスドタイプアーチ橋と呼ばれる国内に数橋しかない珍しい橋が完成しました。また橋のためには、計画・設計・施工・美観などに優れた橋梁に贈られる土木学会の田中賞（作品部門）を授与したことを記念する石碑が建立されています。</p> <div style="text-align: right;">  <p>現在の北上大橋</p> </div>		

※北上川に架かる橋の第1弾は「i・report No.458 千歳橋」に掲載しています。興味のある方はご覧下さい。

編集後記

新年度がスタートしました。一関出張所管内の情報をあいれぽーとを通して発信していきます。よろしくお祈いします。（よ）